

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム Ver.7.2 (2016) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)イシクロ中部事務所付倉庫新築工事	階数	地上3F
建設地	愛知県名古屋市港区福永1丁目302番1の一部	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年5月 予定	評価の実施日	2025年3月3日
敷地面積	仮想敷地 6,797 m ²	作成者	
建築面積	3,233 m ²	確認日	
延床面積	7,556 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境 (スコア=0.0)

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

Q2 サービス性能 (スコア=3.4)

機能性	N.A.
耐用性・信頼性	3.1
対応性・更新性	3.6

Q3 室外環境(敷地内) (スコア=2.5)

生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.5

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー (スコア=3.0)

建物外皮の熱負荷	N.A.
自然エネルギー	N.A.
設備システム効率化	N.A.
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル (スコア=3.0)

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	2.9
汚染物質回避	3.7

LR3 敷地外環境 (スコア=3.2)

地球温暖化への配慮	N.A.
地域環境への配慮	3.1
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項	
総合 外装材は屋根、外壁共に断熱性を有するものを選定し、空調効率に配慮すると共に建物内の従事環境に配慮した。また、建物外部には必要最低限のサッシと照明を設置するとともに、敷地外周には緑地を設け、敷地外環境への光害抑制や景観形成に努めた。倉庫操業時におけるトラック等の車両通行予定台数や従業員の通勤形態をもとに、適切な駐車場や駐輪スペースを設け、待機車両の解消や交通負荷の抑制に努めた。	その他
Q1 室内環境	Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。補修必要間隔の長い内外装仕上げ材を採用、ラック配線など建物の耐用性・信頼性に配慮している。
LR1 エネルギー 運用管理体制を整え、建物管理に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材を採用し汚染物質含有材料の使用を回避し、OAフロアを採用し部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
	Q3 室外環境(敷地内) 敷地外周には緑地帯を配し、周辺からの景観に配慮している。
	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場を確保し利便性に配慮、荷捌き車両の駐車スペースを確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。また、光害対策のチェックを行い、屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)イシグロ(株)中部事務所付倉庫新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
 ■評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策			3.0
LR1 エネルギー	3.0	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	0.0	0	
LR3.2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.075	
2. 自然共生			1.9
Q3.1 生物環境の保全と創出	2.0	0.171428571	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	無	0.017142857	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0	0.085714286	
3. 循環型社会			2.9
LR2.1 水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	2.9	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.028125	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.0
2. 自然共生	評価点 = 1.9
3. 循環型社会	評価点 = 2.9

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。